

1 急激に変化する社会の変化・人の変化

【社会の変化】

- Society3.0「工業化社会」から Society4.0「情報化社会」の時代を迎え、Society5.0「超スマート社会」の時代へ。

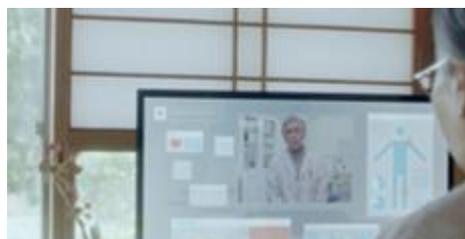


AI 技術の発達により、多くのモノやロボットがインターネットと接続して、さまざまな分野で活躍し、作業の自動化等といった革新的な変化が起こされていく。

空飛ぶドローンが山を越えモノの運搬



遠隔地でも医師の診断を受けられる



無人走行バスがやってくる



冷蔵庫がレシピを提案 足りない食材を注文



AI 技術の発達により

- 定型的業務や数値的に表現可能な業務は AI 技術により代替が可能に
- 産業の変化（クラウドを介したモノや情報のやり取り）
- 働き方の変化（時間や場所を問わない柔軟な働き方）

【人の変化】

● 子供、保護者は、デジタルネイティブ世代でありミレニウム世代（2000 年以降に成人を迎えた世代）となり、価値観が多様化

- IoT 家電を利活用したライフスタイル。
- 時間を「自己実現」や「生きがい」に使えるようになる。
- 「ひとりの時間」を楽しむライフスタイル。
- 他人に価値を押し付けられたくない。
- 「仲間」の考え方が変化
 - 集合してつながる → SNS でつながる

2 このような社会に生きる桑名市の子供

●桑名の子供たち

(桑名市の学校現場教師の声)

- ・コミュニケーション能力に弱さが見られる。
- ・周囲を気にして自分の思いや考えを伝えることに躊躇する。
- ・テストの点数を気にする。
- ・読む力、書く力に弱さが見られる。
- ・ねばり強く取り組めない。
- ・決められたことはするが、自ら考えて行動する力が弱い。
- ・我慢できない。
- ・人とのかかわりが薄い。
- ・SNSを介したネットトラブルに巻き込まれる。

●デジタルネイティブの子供たち

(経済同友会 小林いずみさん 談)

- ・情報入手はスマホから。
- ・新聞や本を読まない。
- ・自分の関心のある情報しかとらない。
- ・eメールよりSNS「いいね！」で評価。
- ・他人からの評価を気にしている。
- ・怖がって生きている。
- ・Face to Face が苦手。
- ・匿名で関係を作ろうとしている。
- ・AIの発達から新しい仕事を意識している。
- ・人のつながりやぬくもりを求めている。
- ・社会貢献したい意識がある。

今の教育のあり方の課題ではないか。

3 変化に対応したこれから求められる資質・能力

AIが苦手とする

「意味を理解して柔軟に判断できる力・調整する力」を備えること → 「人間の強み」

【これから子供たちに求められる力】

- ・文章や情報を正確に読み解き対話する力
- ・科学的、論理的に思考し、活用する力
- ・価値を見つけ生み出す感性、好奇心、探究力

【新学習指導要領「学習評価の3観点」】

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力、表現力等
- ・主体的に学習に取り組む態度

●文部科学省・新学習指導要領の方向性

別添資料1参照

- ・「何を学ぶか」という指導内容の見直しと「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点の重視。
- ・よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現。
- ・学校教育で育む**資質・能力を3つの視点で整理、学習評価の充実**。
「生きて働く知識・技能の習得」 「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」 「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』の涵養」
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善。
- ・各校におけるカリキュラム・マネジメント実施の促進。
- ・校種間相互の連携や接続の重視
- ・大学入試改革・・・知識量だけでなく、思考力や判断力、表現力を問う。

●OECD「知識基盤社会」の時代を担う子供たちに必要な
「キー・コンピテンシー（主要能力）」

- ①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力
 - ・言語や情報、組織等を使いこなす能力
- ②多様な集団における人間関係形成能力
 - ・協調する力
 - ・自分をコントロールする力
- ③自立的に行動する能力

4 これからの桑名市の教育について考えること

テーマは「主体的・対話的で深い学び」

【教科の授業では】

一斉一律の授業
知識注入型授業

「教えてもらう」

- ・知識・技能の習得に重きを置いた授業
- ・与えられた課題を速く、正確に解決することに重きを置いた授業
- ・Society3.0「工業化社会」の産業構造に一致した授業

子供が主体的に学ぶ授業
協働学習型授業

「自分が学ぶ」

- ・読解力など基盤となる学力を確実に習得する授業
- ・子供たちの学習意欲の喚起し、学び方を知ることができる授業
- ・見つけた課題に対して自分なりに考え、調べ、多様な他者と協働して、自らの考えを深めていく授業
- ・ICT を効果的に活用した授業

【特別活動・総合的な学習の時間では】

- ・学級集団や児童会生徒会活動などにおいて、自分たちの生活の中に課題（例えば「いじめ」）を見つけ、自分たちで生活をより良くしていこうとする活動（生徒指導）
- ・視点を学校から地域や社会に広げ、自分たちにできることはないかと考え、実践に結び付ける活動（社会に開かれた教育課程）

こうした授業等の積み重ねにより
自ら考え行動する良さを味わい
学校を卒業した後も学び続けられる人へ